

大津・南部 の森づくり

平成24年(2012年)2月3日発行

<編集・発行(偶数月)>

滋賀県西部・南部森林整備事務所 林業振興担当

TEL 077-527-0655 FAX 077-523-1831

E-mail dj35@pref.shiga.lg.jp<http://www.pref.shiga.jp/d/o-ringyo/>

シカ被害対策の新兵器！～大津市鳥獣害対策室が捕獲試験～

平成24年1月25日、大津市ふれあい動物園において「野生動物捕獲ゲート」(右写真)によるニホンジカの捕獲が行われました。「野生動物捕獲ゲート」は、ゲートとセンサーがセットになった製品です。ニホンジカの出入り状況(頭数)をセンサーが感知し記憶するので、捕獲したい頭数を設定すれば一度に多数のニホンジカを捕獲することができます。また、開始・終了時間を設定できるので、ニホンジカのような夜行性の動物の捕獲に有効です。しかも、自動で捕獲するので、監視場所の必要が無く、監視施設等からの距離に関係なく設置でき、1つの群れを捕獲したら、設置場所を移動して違う群れを捕獲するというように効率良く捕獲できます。



費用的には、「野生動物捕獲ゲート」と、10m×10mの四角形の柵で、約150万円です。今回の捕獲では、8頭のニホンジカが一気に捕獲され(左写真)、この画期的な取り組みは、大きな成果を上げることが出来ました。「野生動物捕獲ゲート」を設置した大津市鳥獣害対策室では、今後、この装置の設置を拡大し、ニホンジカの捕獲に積極的に取り組みたいとのことです。

「木育(もくいく)」の広がり！

「木育(もくいく)」は、大人や児童の木に対する親しみや木の文化への理解を深め、材料としての木材の良さやその利用の意義を学ぶ活動のことで、平成18年の森林・林業基本計画で使われた言葉です。平成23年2月に守山市で開催された南部流域森林づくりフォーラムでも「木育」がテーマになり、第1人者である鳥根大学の山下晃功教授により取り組み事例の報告があり、幼児用の工作キット「ロボ木ー(ろぼきー)」(右写真)が紹介されました。

「木育」は限られた人しか出来ないのではなく、既存の活動でも「木育」という思想を踏まえて木の良さを普及していくことが「木育」活動の広がりにつながります。当事務所管内でも「びわこトンカチクラブ」の活動では、「木育」活動という観点から、子供たちの木工教室に留まらず、お父さん同士の交流も含めた広がりを目指しておられます。他にも「奥比叡伊香立里山会」や「上仰木辻ヶ下生産森林組合」なども熱心に木工教室の開催を続けておられます。

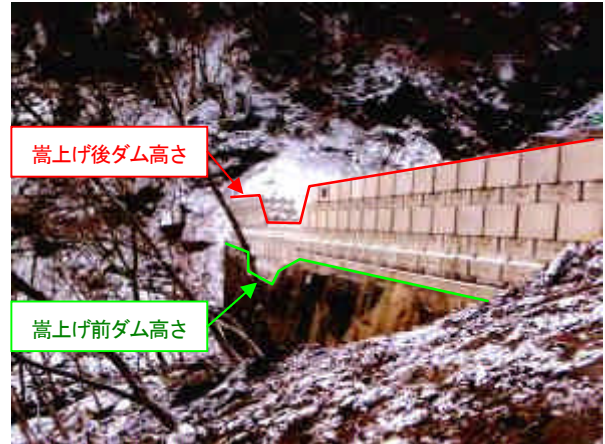


～林業技術情報～ 大型異形ブロックによるダム嵩上げ工

治山ダムは、溪流の勾配を緩和して溪流を安定させたり、堆積した不安定土砂の下流への移動を防止したりする機能などがあります。今回工事を行った大津市八屋戸の金比羅谷では、約20年前に治山ダムを設置しましたが、流れる年月と共に発生した土石に埋まってしまいました。

そのため滋賀県内で初めて大型異型ブロックを用いた既設ダムの嵩上げを行いました(写真)。大型異型ブロックは、海岸や河川の護岸に使用される例が多く、テトラポッドもその一つです。今回の工事で使用したブロックはもう少し平たいもので、これらを層状に積み上げてダムを造りました。重さは1個2トンで、合計653個を積み上げて、現況よりも約3.2m嵩上げしました。以下にブロックによる工法のメリットの一部を紹介します。

- ・ 工期の短縮：今回の工事場所は12月中旬以降に積雪があり、それ以降は作業が困難になります。ブロックによる工法では作成したブロックを積み上げるだけなので、工期を大幅に短縮でき、冬の到来までに作業を終えることが出来ました。
- ・ 床堀の省略：コンクリートでの嵩上げを行う場合は、既設ダム背面の土を全て掘削しなければなりません。地質が軟弱なため掘削状態で放置すると崩壊を起こします。ブロックによる工法では床堀の深さが浅くてもよいため、施工中の事故発生が抑止できました。



西部流域森林づくり委員会大津地域部会の取り組み

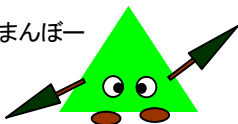
流域森林づくり委員会は、琵琶湖森林づくり条例に基づき、滋賀県内の5つの流域ごとに設置されています。大津地域には、西部流域森林づくり委員会の大津地域部会が設置されています。

大津地域の第1期(H19～21)委員会では、平成22年3月に①森林の価値のバトンタッチ、②地域産材の利活用のための仕組み、③里山整備の推進と利活用の3項目の重要提言を作成していただきました(西部・南部森林整備事務所HP参照)。今回の第2期委員会(H22～24)では、特に里山に重点を置いて検討していただいています。特に、今年度は、里山の利活用事例として、大津市南比良と大津市八屋戸の2箇所に「里山モデル林」の設定が進んでいます。いずれのモデル林にも地元で活躍する森づくり団体が連携しており、薪や柴の利用など里山資源の循環モデルとなるものです。さらに今後は、里山の資源を活用した木製品の試作・開発に進んでいく予定です。



里山モデル林の現地検討の様子

やまのぼー



2012年は、国際協同組合年！！

昨年2011年は国際森林年でした。今年、2012年は国際協同組合年です。林業の分野においても、集約化施業などの効率的な組織施業が重視されています。これからの施業に当たっては、森林組合の存在が益々期待されるところです。